

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
  - b 脱字。
  - c 文末の句点の脱落。
  - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。  
※その他不適切と判断せざるをえない箇所。
  - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

問一 a 〓ニ b 〓ハ c 〓ロ d 〓イ [3点×4] 解答通り

問二 ホ [5点] 解答通り

問三 一度あらわ [5点] 解答通り

問四 富士は遠望の対象であり、風景を引き立て、人事や自然の動の彼方に超然と静まり返るものであり、また写実そのままを描くべきではないもの。(65字) [8点]

A 富士は遠望の対象であり、(2点)

※「富士」の有無は不問。遠望の対象であるということが書けていれば点を与える。

B 風景を引き立て、(2点)

C 人事や自然の動の彼方に超然と静まり返るものであり、(2点)

D また写実そのままを描くべきではないもの。(2点)

※「勝手に変形し」や「勝手に気ままに変形し」は、それ自体ではDの得点と見なさず、無得点とする。

写実そのままを描くべきではない、という要素が必要。

問五

実際に登ってみることで「本当の富士」が判り、その時、富士は単なる景色の一部ではなく、堅固な存在として景色全体を統合する力となるという考え。(69字)「8点」

A

実際に登ってみることで「本当の富士」が判り、(2点)

※「実際に登ってみる」と「本当の富士」が判り」の両方の要素がそろったときに2点とする。  
片方の要素だけではAは無得点。

B

その時、富士は単なる景色の一部ではなく、(2点)

C

堅固な存在として景色全体を統合する力となる(4点)

※「力となる」を欠く場合は、全体3点。

※「堅固の存在」だけでは1点。

※「景色全体を統合する」だけでは2点。

問六 イ・ロ

[5点×2] 解答通り

問七 ハ

[2点] 解答通り

※ 制限字数の半分以上書かなかった場合は無得点とする。

※ 「から」「や」「こと。」「のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として  
一点減点。

※ 句点を付けていないものも一点減点。

※ 誤字は一点減。

大問二 問一

基準 配点.. 2点×4

■模範解答 ※解答例通り (漢字書き取り問題)

- 1 担保
- 2 変貌
- 3 迎合
- 4 解析

大問二 問二

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素B不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 6点

■模範解答

A

誰にでも再現可能な実験手法を用いることで、

B

研究者が示す仮説の正しさが証明できるようになったから。(48字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…五十文字以内 二十四字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 誰にでも再現可能な実験手法を用いることで…3点

- ・「実験研究」が「誰にでも再現可能なもの」であることについて説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 研究者が示す仮説の正しさが証明できるようになったから…3点

- ・「実験研究」によって「仮説の正しさが証明できるようになった」ということの説明をしていないものは、要素B加点数なし

大問二 問三

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 6点

■模範解答

A  
主観的な意見を

B

すり合わせて妥協点を探り出して解を見出すこと。(30字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…三十字以内 十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 主観的な意見を…3点

- ・「日常の場の意見」を「主観的な意見」と言い換えていないものは、要素A加点数なし

■要素B すり合わせて妥協点を探り出して解を見出すこと…3点

- ・「意見の相違の調整」を「すりあわせ」「妥協点」いずれかを使って説明していないものは、要素B加点数なし

大問二 問四

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(抜き出し問題)

単に自然を観測する科学研究

大問二 問五

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

□



大問二 問六

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答

A

科学は真理の追究をする学問であるから、

B

その研究の結果は絶対的な真実だと考えられる面があるが、

C

実際の研究はあるパラダイムの中での考え方に基づいて行われ、

D

その反証をする別のパラダイムが登場すれば、新しい理論に変わっていく可能性を持っているから。(120字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百二十字以内 五十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 科学は真理の追究をする学問であるから…3点

・一般的な考え方として、「科学は真理を追究するものだ」ということの説明をしていないものは、要素A加点数なし

■要素B その研究の結果は絶対的な真実だと考えられる面があるが…3点

・要素Aには「絶対性があると考えられている」ということを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 実際の研究はあるパラダイムの中での考え方に基づいて行われ…3点

・「科学はあるパラダイムの中で行われている」ということを説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D その反証をする別のパラダイムが登場すれば、新しい理論に変わっていく可能性を持っているから…3点

・要素Cであるから「別のパラダイムの登場で理論は新しくなる」ということを説明していないものは、要素D加点数なし  
・別のパラダイムの登場による反証「新しい理論に変わる」という内容いずれかが抜けている場合は2点マイナス  
・「可能性」ではなく「常」などになっている場合は2点マイナス

\*「教義」を「宗教的教え」と、言葉の意味通り説明しているものは、加点数なし。

「科学は宗教的教えのようなもの」としていればよい。

\*「パラダイム」は「ある科学者集団に共有されている見方」が本文中の使われ方だが、「ある時代の人々の見方」としたのも可とする。

\*全般的に言葉の不足と考えられるものが多いかと思う。「別のパラダイム」「覆される可能性がある」などが顕著である。

大問二 問七

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

水

★2021年度 全国有名国公立大模試 第3回

〔三〕(古文『成尋阿闍梨母集』) 採点基準 ※50点

※ 誤字・脱字・読めない字・意味が通じない表現などは、程度に応じて、配点範囲内で減点してください。

問一 甲 二重傍線部の意味するものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

【2点】

〔二重傍線部〕

A2 かななつき

〔正解〕

A2 ホ (十月)

〔ポイント〕

A【2点】ホ

※「ホ」以外はX。

問一 乙 二重傍線部の意味するものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

【2点】

〔二重傍線部〕

A2 申の時

〔正解〕

A2 二 (午後四時前後)

〔ポイント〕

A【2点】ニ

※「ニ」以外は×。

【傍線部】

A2 ゆかしう

B2

おぼつかなきこと

C1

のみ D1 覚ゆる

【解答例】

A2 会いたくて

B2

気がかりなこと

C1

ばかりが D1 思われる

※採点方法 各要素単独採点。ただし、Cは赤字の条件あり。

※字数 指定なし。

【ポイント】

A【2点】ゆかしう ↓ 会いたくて

※「成尋に」の有無は不問。

※「会いたい」の意があれば【2点】。

※「心ひかれて・知りたくて・聞きたくて」は【1点】。

「思いが馳せられて・成尋のことばかり考えてしまって」も【1点】とする。

B【2点】おぼつかなきこと ↓ 気がかりなこと

※「気がかりだ・気にかかる・心配だ」の意があれば【2点】。

※「不安だ・待ち遠しい」は【1点】。

※「つらい・悲しい」「はつきりしない」は×。

C【1点】のみ ↓ ばかりが

※「ばかり・だけ・のみ」の意があればよい。

※BもCも0点の場合は、得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く。)

D【1点】覚ゆる ↓ 思われる

※「思われる」は、自発的表現になっていれば「感じる・思い浮かぶ・(心に)浮かぶ」等でもよい。

自発的表現になっていない単なる「思う」や「考える」は×。

問二 ㊦ 傍線部を現代語訳せよ。

【6点】

〔傍線部〕

A1

身の

B2

死なんも、

C1

もろともに

D2

見給へかし。

〔解答例〕

A1

私が

B2

死ぬような時も、

C1

二人で

D2

看取ってくださいね。

※採点方法 各要素単独採点。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】身の ↓ 私が

※「自分が・我が身が・この身が」でもよい。「身が・体が」などは×。

B【2点】死なんも、 ↓ 死ぬような時も、

※「死ぬ時も・死ぬことも・死ぬ様子も・死ぬ姿も・死ぬのも」等、「死ぬ」のあとに適当な体言、もしくは準体言の「の」が補われていれば【1点】。

※右の表現がある上で、「ん」の婉曲の訳「ような」があれば【2点】。

C【1点】もろともに ↓ 二人で

※「一緒に・そろって・共に・二人一緒に・二人そろって」等の意があればよい。「二人」は「兄弟・成尋と律師」でもよい。

D【2点】見給へかし ↓ 看取ってくださいね

※「看取って」は、「見守って・見届けて・見送って」等でもよい。

これが、単なる「見て・見ている・ご覧になって」等になっている場合は、マイナス点。

※尊敬表現がない「看取ってね・見届けよ」等は、マイナス点。

※「かし」の念押し訳「〜ね・〜よ・〜な」がない場合は、マイナス点。

※右のマイナス点は、Dの【2点】からマイナスする。【0点】以上にはマイナスしない。

〔傍線部〕

A2 かれよりも B3 申さん

〔解答例〕

A2 むこうからも B3 御手紙を差し上げましょう

※採点方法 各要素単独採点。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】かれよりも ↓ むこうからも

※「あちらからも・新山寺からも・新山からも・備中からも・修業先からも・旅先からも」等でもよい。  
「私からも・律師からも・相手からも・あの人からも」等は×。

B【3点】申さん ↓ 御手紙を差し上げましょう

※「手紙を送ろう・連絡をしよう」の意がない場合は×。「手紙・連絡」の意がない「申し上げよう」は×。  
「くしよう」は「くするつもりだ・くしたい」でもよしとする。

※「御」の有無は不問。

※「申し上げる・差し上げる・いたす」等の謙讓表現がない「手紙を送ろう・連絡をしよう」等は【2点】。



問三 ① 二重傍線部の敬語の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。【3点】

〔二重傍線部〕

A3 律師のおはするに聞こえ給ふ。

〔正解〕

A3 へ (律師への敬意を示す謙讓語)

〔ポイント〕

A【3点】へ

※「へ」以外は×。

問三 ② 二重傍線部の敬語の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。【3点】

〔二重傍線部〕

A3 律師のおはするに聞こえ給ふ。

〔正解〕

A3 ロ (成尋への敬意を示す尊敬語)

〔ポイント〕

A【3点】ロ

※「ロ」以外は×。

問三 ③ 二重傍線部の敬語の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。【3点】

〔二重傍線部〕

A3 おぼつかなきこと侍らず。

〔正解〕

A3 リ (律師への敬意を示す丁寧語)

〔ポイント〕

A【3点】リ

※「リ」以外は×。

問四 X・Yの和歌の説明として適当でないものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

【4点】

〔該当和歌〕

X あらましき雨の音にもはるかなるこのもといかが時雨ふるらん  
Y つらかりし春の別れに今までもあるにもあらで霰ふるかな

〔正解〕

**A4**

イ (Xの「あらましき」は「成尋にそばにいてほしい」という意味である。)

〔ポイント〕

**A【4点】** イ

※「イ」以外は**X**。

問五 傍線部Aは「やはり思ったとおりだ」の意であるが、成尋がこのように言ったのはなぜか。その理由を説明せよ。 【8点】

「傍線部」 さればこそ

「解答例」 **A3**「生きて自分の帰りを待っているように」と**B2** 仏に願ったとおりに、**C3**（帰宅すると、母が無事でいたから。

※採点方法 A・Bは赤字の条件があります。 ※字数 指定なし。

「ポイント」

**A【3点】**「生きて自分の帰りを待っているように」と

※**Cが0点の場合は得点できない。**（ただし、誤字等で0点になっている場合は除く。）

※「自分の帰りを」の有無は不問。

※「生きて待つように」の意があれば**【3点】**。「無事で待つように」になっている場合は**【2点】**。

※「待つ」の意がない場合は、右の得点から、**マイナス1点**。

**B【2点】** 仏に願ったとおりに、

※**Cが0点の場合は得点できない。**（ただし、誤字等で0点になっている場合は除く。）

※「仏に願ったとおりに・仏に望んだように」の意があれば**【2点】**。

※「仏に」の意がない「願ったとおりに・望んだように・思ったように・考えたとおりに」等は**【1点】**。

※「とおりに」は「ように・ところ」でもよい。

**C【3点】** 帰宅すると、母が無事でいたから。

※「帰宅すると」や「待っていた」の有無は不問。

※「母が」がない場合は**X**。

※「無事で」は「生きて・健康で」等でもよい。

※「生きて母と再会できた」のように、生きていたのが母であることが不鮮明になっている場合は**【1点】**。

問六 傍線部Bについて、この時の筆者の心情を、「なかなか」の意味を明らかにしながら、簡潔に説明せよ。  
【6点】

〔傍線部〕 なかなかに寝も寝られず

〔解答例〕 **B** なまじ **A3** 成尋に会えたことで、 **(B)** かえって **C2** 再びの別れがたらくなっている。

※採点方法 各要素単独採点。ただし、**A**は赤字の条件あり。 ※字数 指定なし。

〔ポイント〕

※「寝られない」という内容の有無は不問。

**A**【3点】成尋に会えたことで、

※「成尋に会ったことで・成尋に会ったので・成尋に会ったために」の意があればよい。

※**C**が**0点**の場合は、右の意があっても**【1点】**とする。(ただし、誤字等で**0点**になっている場合は除く。)

※「成尋に会った」があるが、**C**の「つらい」の理由として書かれていない場合は**【1点】**とする。

**B**【1点】なまじ く かえって。

※「かえって・なまじ・なまじっか・中途半端に」のいずれかがあればよい。**A・C**が**X**でも得点できる。

**C**【2点】再びの別れがたらくなっている。

※「別れがつらい」の意があれば**【2点】**。「つらい」は「悲しい・寂しい」等でもよしとする。

※「つらい」はあるが「別れが」がない場合は**【1点】**。

問七 『成尋阿闍梨母集』は平安時代の私家集で、日記文学としても知られる作品である。次のイ、ホの日記のうち、平安時代の成立でないものはどれか。一つ選び、記号で答えよ。 【2点】

〔正解〕 A2 ハ （十六夜日記）

〔ポイント〕

A【2点】 ハ

※「ハ」以外は×。

2021年度 第3回 有名大国公私大模試 「近古史談」

四 (漢文) 採点基準 (合計≒50点)

問一 【解答通り】各2点 2×4≒8点

解答

a ≒ ひそかに    b ≒ つぐなえ(と)    c ≒ けだし

d ≒ ついた

採点基準

- ・ 送り仮名のないもの0点    例 a 「ひそ」ひそか    b 「つぐな」    c 「けだ」  
「ら」d
- ・ 仮名遣いの誤り0点    例 b 「つぐなへ」    d 「つひた」
- ・ bの「と」は不問。



問二 A 6点 B 4点

(難関大は各4点)

a 2点

b 3点

c 1点

解答例

A 自分から 罪に服したい と願いだ。

採点基準

・ a 「自首」のままは不可。「自ら」など可。

・ b 「罪を赦してもらおう」「赦免を願う」は不可。

「罰を与える」「罰を請う」も可。

・ c 「申し出た」「名乗り出た」などには1点加算。

「願った」「思った」「考えた」のみは不可。

d 2点 e 1点 f 1点

解答例

C 思いやる べき 余地がある。

採点基準

- ・ d 「大目に見る」「軽減する」「同情」など許容。  
「許す」のみの場合は不可。
- ・ e 当然または適当でやくしていれば可。
- ・ f 「ところ」など許容。

問三 【解答通り】 4点

解答 追究也

問四 【解答通り】 6点

解答 ハ

問五 【解答通り】 各3点 3×2＝6点

解答 X＝小 Y＝大

問六 【解答通り】 6点

解答 欲<sub>三</sub>以<sub>レ</sub>此損<sub>二</sub>其富<sub>一</sub>也

採点基準 ・送り仮名をつけているもの…不可。

## 解答例

a 2点

b 2点

c 2点

不正を働いた 八郎兵衛を、 ただ処罰するのではなく、

d 2点

e 2点

儲けを吐き出させることによって 償わせよう とした点。

## 採点基準

全体：字数が四〇字なくとも要素が入っていれば加点する。

文が完成していないものは〇点。

a…「詐欺をした」「不正をした」など2点。

「罪を犯した」は1点。

b…「八郎兵」も可。

c…「刑罰を与えず」は1点。

d…「社会に返還」「民への貢献」など抽象的なものは1点。

e…「処罰した」は1点。

以上